

安定成層では谷間や山裾に淀み点ができ自由大気の底が持ち上がることが物理的根拠になっています。その場合、重力波の振幅はその分だけ小さくなるので2つのアプローチは本来相補的であるべきですが、両者の扱いはこの点の整合性に問題があります。

内部重力波に関する研究論文はたいへん数が多い。ここでは数値予報のためのパラメタリゼーションを取り扱った論文のみ紹介します。

参 考 文 献

Iwasaki, T., S. Yamada and K. Tada, 1989: A parameterization scheme of orographic gravity

wave drag with two different vertical partitions. Part I: Impact on medium-range forecasts. *J. Meteor. Soc. Japan*, **67**, 11-27.

McFarlane, N.A., 1987: The effect of orographically excited gravity wave drag on the general circulation of the lower stratosphere and troposphere. *J. Atmos. Sci.*, **44**, 1775-1800.

Palmer, T.N., G.J. Shutts and R. Swinbank, 1986: Aleviation of a symmetric westerly bias in general circulation and numerical prediction models through an orographic gravity wave drag parameterization, *Quart. J. Roy. Meteor. Soc.*, **112**, 1001-1039.

(気象庁数値予報課, 岩崎俊樹)

WCRP シンポジウムのお知らせ

主 催: WCRP 協議会

東京大学気候システム研究センター

開催期間: 1991年11月26日～28日

開催場所: 竹橋会館(地下鉄東西線竹橋)

概 要: 今回は、4年間にわたって行われた WCRP の総まとめの会議ですので、各課題の主査を中心に、今回得られた成果を発表する予定です。是非、御参集ください。

1991年度(第28回)秩父宮記念学術賞推薦要項

趣旨: 秩父宮記念学術賞は、秩父宮殿下が、財団法人日本学術振興会総裁として、我が国の学術振興のために多大の尽力をされた御事蹟を記念して昭和38年度に制定されたもので、秩父宮殿下が格別に深い関心を寄せられた「山」に関する科学で顕著な業績を挙げた者に授与される。受賞者の選考および授賞は日本学術振興会が行う。

授賞の対象: 「山」に関する個人またはグループによる学術上顕著な研究調査の業績で、次の各条件を満たすものを対象とする。

① 山に関する学術的研究調査であること。

② 山における自らの実地研究調査活動を中心とするものであること。

③ 新しい知見またはデータの収集等により、新領域の開拓または研究の進展に貢献すると認められるものであること。

④ 学術文献として公刊されているものであること。
(現在印刷中等のもので、1991年12月末までに必ず公刊されるものを含む)

推薦の締切期日: 1991年10月19日(土)

(気象学会提出締切期日: 10月12日)